まちにとびだせ!

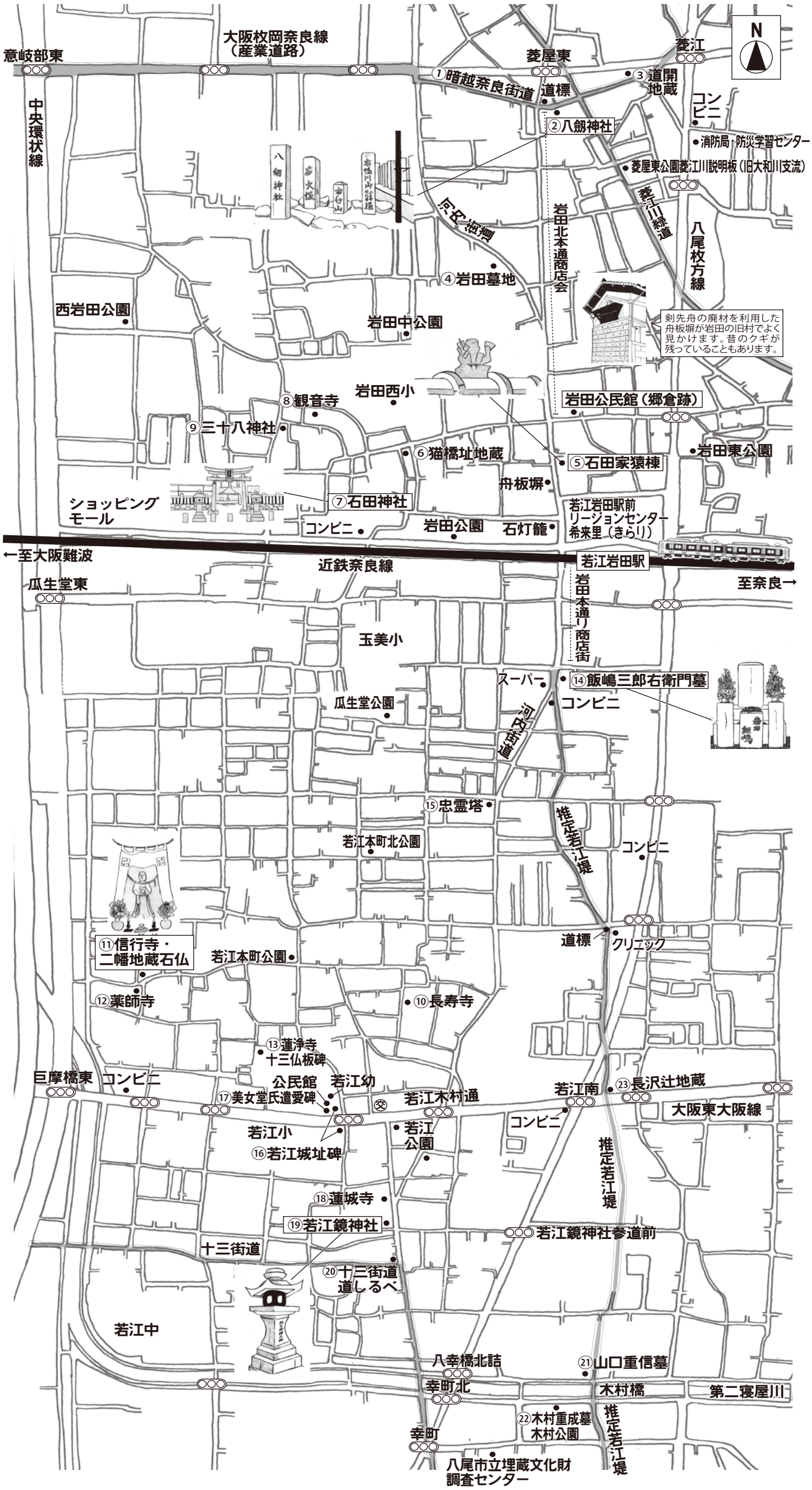
東大阪いっとこMAP

東大阪市
マスコットキャラクター
トライくん

若江岩田駅周辺

天下分け目の地をゆく

戦国時代最後の豊臣・徳川の戦い、岩田・若江一帯は激戦地となり、
1615年(元和元年)大坂夏の陣「若江の戦い」のとき美男で名高い若武者木村重成は
この地で討死にしました。「若江木村通」の道路標識は重成への地元の人たちの思いが伝えられています。
若江城は南北朝時代、河内国守護職になった畠山氏によって築城されました。
15世紀の中ごろ、畠山氏の家督をめぐる争いは戦国時代の口火となりました。
当時の遺跡が数多く残るこの地を散策してみませんか。



①暗越奈良街道 くらがりごえならかいどう

大坂・玉造二軒茶屋から生駒山暗峠を越え奈良三条(猿沢池)を結ぶ最短の街道。豊臣時代は大和・伊賀・伊勢などの諸大名の参勤道となり、江戸時代は奈良の諸寺や長谷、伊勢参宮道として栄えました。

②八劔神社 やつるぎじんじゃ

旧暗越奈良街道と河内街道の交差点のすぐ東側にあり、社伝によれば付近は島とよばれ、応永3年(1396)の宇賀御魂神を勧請し、後に放出にある阿遅速雄神社の味耜高彦根命を加え八劔神社になったといわれています。境内には東100mにあった道しるべが移されています。おかげと刻印があるいせ・ならへの道標、ひょうたんの形が彫ってある道標など３本あります。もとの場所から稲葉や吉田をとおって瓢箪山へ行く道があったこともわかります。

③道開地蔵 どうかいじぞう

神社の東50m、奈良街道に面した堂内の三体のうち、一番大きな地蔵さんは享保11年(1726)の年号と「右ハならミチ」の刻印があり、道しるべの役割も兼ねており、当初は街道に面して建てられていたものをこの地に移してまつられています。

④岩田墓地 いわたぼち

奈良時代、僧行基が開いたといわれている。明治以降河内7墓巡りの風習が盛んとなり大阪市内から多くの人が参拝されにぎわいました。8月の盆の頃七墓を巡拝して焼場の穴をまたぐか、仏様を拝んでくると下の世話をうけなくて極楽往生できるといわれている。岩田墓地もその１つです。8月11日の墓市には露店が出てにぎわいます。

⑤石田家の猿棟 いしだけのさるむね

旧家石田家の大屋根上の二匹の瓦製の猿。一匹は扇・貨幣、一匹は玉を持っています。江戸時代、住吉神社に願をかけ近隣の村との水争いの勝利を祝ったものだといわれています。享保13年(1728)の戊申年に大屋根にすえ付けられました。

⑥猫橋址地蔵 ねこばしあとじぞう

このあたりは水田のあぜ道に猫橋と呼ばれていた一枚の石橋がありました。改修工事のときその下から数体の石仏と室町時代の一石五輪塔が発見され、昭和の初めにこの地にまつられました。お堂の横に猫橋址の歌碑があります。

⑦石田神社

延喜式内社で、第14代仲哀天皇、第15代応神天皇、仲哀天皇皇后で応神天皇の母である神功皇后をおまつりしています。江戸時代は八幡宮といわれていました。もと北側の水田の中に幸神塚、無名塚があり、大きな石が埋もれつながっているといわれ石田(岩田)の地名のおこりといわれています。境内の大きな楠の陰影は地域のいこいの場です。

⑧観音寺 かんのんじ

江戸時代後半に、長栄寺中興の祖、慈雲尊者が高井田・長栄寺から額田山中の長尾滝に修行に行くとき、よく立ち寄った寺です。

⑨三十八神社 みそやじんじゃ

西岩田村の氏神。菱江の仲村神社の古称が仲村三十八大明神、仲村神社の由緒書に三十八神を祭祀しているとあります。多くの神をまつった神社ということでしょう。平成8年5月、新社殿に復社されました。

⑩長寿寺 ちょうじゅじ

融通念仏宗、寺宝の室町時代の応永版本上巻融通念仏縁起絵巻と江戸時代の享和版本融通念仏縁起絵巻は市の文化財に指定されています。

⑪信行寺・二幡地蔵石仏 しんぎょうじ・ふたはたじぞうせきぶつ

高さ1.5m、幅82cmの花崗岩の自然石の中央を舟形に彫りこみ、その中に地蔵菩薩を半肉彫りにしています。南北朝時代の古い様式を伝える室町時代初期の作と推定されます。市指定文化財です。